

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	静岡県経済の構造的課題と健康関連産業を事例とした産学連携のあり方				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	岸 昭雄
	研究分担者	所属・職名	静岡社会健康医学大学院大学・理事	氏名	芦川 敏洋
		所属・職名	経営情報学部・助教	氏名	野口 理子
		所属・職名	経営情報学部・客員教授	氏名	西野 勝明
	発表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	岸 昭雄

講演題目	静岡県経済の構造的課題と健康関連産業の地域経済へのインパクト
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>静岡県経済は製造品出荷額規模や県民1人当たりGDPが全国3位程度に位置し、これまで製造業の集積と県外への移出（輸出含）が主力となって発展してきた。こうした工業移出型の成長モデルの近年の動向を把握し、地域経済の構造的課題を抽出するとともに、今後の成長の牽引力として健康関連産業が期待できるものと仮説を立て、その成長可能性の検証を研究目的とする。</p> <p>マクロ経済分析の成果として、2014-2017年における静岡県の平均実質成長率は0.51%・34位と、リーマン不況以前（1999-2003年、1.91%・4位）に比べて停滞から抜け出せていない。静岡県（2017年第2次産業割合42.8%・3位、純移出割合11.3%・5位）は工業移出型県であるが、同様の特徴を持つ滋賀県（47.2%・1位、14.0%・2位）が相対的に高い成長率（2.10%・3位）を維持しているのに比べて、停滞の度合いが顕著である。こうした成長が伸び悩むマクロ経済的要因として、民間企業資本ストックの伸率（2014-2017年、△1.23%・46位）と全要素生産性成長率（0.27%・38位）の寄与が特段低迷していることが判明した。</p> <p>一方、静岡県内の医薬品・医療機器産業は生産額が1兆2050億円（2020年、全国シェア10.3%）と11年連続して全国1位にあり、比較的堅調に推移している。過去20年来静岡県が推進するファルマバレープロジェクトの成果の一面と推測されるが、静岡県経済の成長軌道が今後力強く伸長に転じるには、同産業のより一層の発展による貢献が求められるが、その実現可能性を検証する実態分析が重要となる。</p> <p>そこで本研究は、ファルマバレープロジェクトを推進するファルマバレーセンターおよび静岡県東部地域の医療機器関連企業にヒアリングを行った。その結果、医療機器関連産業は品質管理のための認証（ISO,QMS）を取得する必要があるが、本件の地域企業にとっては参入障壁が高いことが分かった。そのため、大手企業が新たに立地しても、そのサプライチェーンに地域企業が参入することが困難であり、いわゆる裾野産業が十分に地域に育成されにくい構造となっている。つまり、従来の企業誘致によって地域経済を活性化させるような政策は従来の製造業に比べて効果が発現しにくい産業であることが分かった。静岡県東部が医療機器関連産業のクラスターを目指すためには、地域企業が認証を獲得するための人的、金銭的支援を行うことが重要であると示唆される。また、認証が必要ではない、より広い意味での医療関連産業（「健康」に関連した産業全般）も含めた形で産業育成を行っていくことも地域経済の活性化には重要であると考えられる。</p>